

新版 指導要文集

しんぱん

しどうようもんしゅう

だいにしょう

じっせん

第二章 実践

ずいそう

瑞相

ここに知んぬ、

し

徴前に顕れ、

しるしさき

あらわ

災い後に致ることを。

わざわ

のち

いた

(002 立正安国論

りつしょうあんこくろん

瑞相 35 ページ 11 行

ずいそう

あめ たけ み りゆう だい 知
雨の猛きを見て竜の大なることをしり、華の大なるを見
いけ 深 知
て池のふかきことはしんぬべし。

（005 開目抄 かいもくしょう）

ずいそう
瑞相 85ページー8行

あめ つよ ふ み りゆう くも おお し
雨が強く降るのを見て竜（雲）の大きいことを知ることができ、
れんげ はな おお み いけ ふか し
蓮華の花が大きいのを見て池の深いことが知られるのです。

まさ し つうず せけん きつきよう だいずい

当に知るべし、通途の世間の吉凶の大瑞にはあらざるべし。これひとえに、この大法興廢の大瑞なり。

だいほうこうはい だいずい

けんぶつみらいき

037 顕仏未来記

ずいそう

瑞相 611 ページ 11 行

ちちゆくだ
よろこ
ごときた
かんじやくな
こうじんきた
「蜘蛛下つて喜び事来り、鴉鵲鳴いて行人来る」。

067
北条弥源太への御状
ほうじようやげんた
ごじよう

ずいそう
瑞相
858
ページー9
行

せいおうぼ せんそう せいちょう きやくじん らいそう かんじやく
西王母の先相には青鳥、客人の来相には鴝鵒、これな
り。

127 法華行者逢難事
ほつけぎようじやほうなんじ

ずいそう
瑞相
1304 ページ 3 行

からす　もう　とり　むげ　下衆ちよう

鳥と申す鳥は、無下のげす鳥なれども、鷲・鵟の知ら

ねんじゆう　きつきよう　し　へび　もう　むし　りゆう　ぞう　およ

ざる年中の吉凶を知れり。蛇と申す虫は、竜・象に及

しちにち　あいだ　こうずい　し

ばずとも、七日の間の洪水を知るぞかし。

（166 曾谷入道殿御返事（如是我聞の事）

そやにゆうどうどのごへんじ　によぜがもん　こと

ずいそう

瑞相 1438 ページ 8 行

しょうじ しるしさき げん
小事すら 験先に現ず。いかにいわんや大事をや。だいじ

かしやくほうぼうめつざいしょう
196 呵責謗法滅罪抄

ずいそう
瑞相 1534 ページ 8 行

しやく いけ じよう なみ ろぎん かぜな にほんこく

尺の池には丈の浪たたず、驢吟ずるに風鳴らず。日本国

まつりごとみだ ばんみんなげ

の政事乱れ、万民歎くによつては、この大瑞現じがた

たれ し ほけきよう めつ ふめつ だいずい

し。誰か知らん、法華經の滅・不滅の大瑞なりと。

かしくほうぼうめつざいしろう

(196 呵責謗法滅罪抄

ずいそう

瑞相 1534 ページ 15 行)

しょうじ

ぜん

起

そうら

だいじ

かなら

小事こそ善よりはおこつて候え。大事になりぬれば、必

おお

騒

おお

さいわ

ず大いなるさわぎが大いなる幸いとなるなり。

しじょうきんごどのごへんじ

ふかしやくしよりよう

こと

(208 四条金吾殿御返事 (不可惜所領の事))

ずいそう

瑞相

1584

ページー4行